

## 地方創生関連交付金事業の効果検証について

### 1 明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2021 年度）の概要

#### (1) 総合戦略の方向性

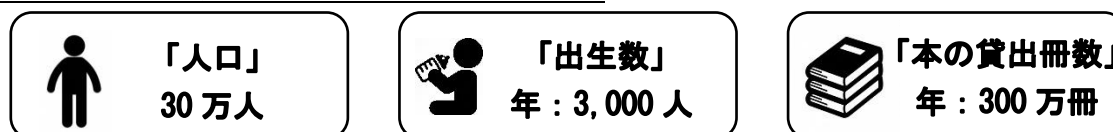
- ・「暮らしやすさ」を重視し、市民サービスの向上につながる施策を展開し「住みたい、住み続けたい」と思われる『選ばれるまち』に向けた取組を進めていきます。

#### (2) 総合戦略の4つの基本目標

- ・誰もが安心して暮らすことができるまちづくりに向けた取組を進めていく上で、4つの基本目標を定め、人口減少と地域活力低下の克服に向けた総合的な施策展開を行います。

- 1 若い世代の子育て環境を整える
- 2 新たな人の流れをつくる
- 3 まちの賑いを高める
- 4 安全・安心な暮らしを実現する

#### (3) 総合戦略の数値目標（トリプルスリー）



※トリプルスリーを含め、21 の数値目標を設定

### 2 交付金の概要

#### (1) 地方創生推進交付金

目的	地方版総合戦略に基づき、地方公共団体が自主的・主体的に行う先導的な事業について、国から交付金を直接交付し、安定的かつ継続的に支援すること
対象	地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業（ソフト事業）
負担率	国 1/2 市 1/2

#### (2) 地方創生拠点整備交付金

目的	地方版総合戦略に基づき、地方公共団体が自主的・主体的に行う先導的な事業と一体となって整備される施設について、国から交付金を直接交付し、地方の事情を尊重しながら、施設整備等の取組を進める
対象	地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業と一体となって整備される施設（ハード事業）
負担率	国 1/2 市 1/2


### 3 地方創生推進交付金（2021年度（令和3年度）の効果検証）

事業名	豊かな海づくりによる明石製品の消費圏拡大					
主管課	政策局シティセールス課、市民生活局産業政策課、農水産課、豊かで安全な海づくり室、都市局海岸・治水課、教育委員会事務局学校教育課					
総合戦略基本目標	基本目標3 まちの賑いを高める					
事業目的	<p>○「明石鯛」「明石だこ」「明石海苔」といったブランド水産品の消費圏が、国内はもとより国外に拡大し、首都圏の「明石地域連携協力店」の拡充実現を目指し、より多くの人に明石産品を口にしてもらえるように取り組む。</p> <p>○2017年にB-1 グランプリ西日本大会、2019年にB-1 グランプリ全国大会を明石市で開催するなどフードツーリズムへの取組を進めてきた。この大会のレガシーを活かし、現地を訪れ明石の「食」を体験するとともに、「地域」と「歴史」を感じられる環境の整備をすることで、関係人口の拡大を目指す。</p>					
事業内容 (2021年度)	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、第41回全国豊かな海づくり大会（兵庫大会）が2022年度に延期されたことに伴い、プレ大会を2021年10月に実施した。</p> <p><b>【実施した事業】</b></p> <p>○明石産水産物のブランド化と消費圏拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明石産品の販路拡大、販路開拓及び明石産品にかかるPR等を実施した。</li> <li>・一番摘み明石海苔、厚切り味噌漬（さわら）等をふるさと納税返礼品に追加した。</li> <li>・小学生を対象としたお魚教室の開催。</li> </ul> <p>○持続可能な海づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水放流水中の栄養塩類濃度を季節ごとに変化させる能動的な管理運転の実施など海域に栄養塩類を供給した。</li> <li>・産卵用たこつぼの投入、ヒラメをはじめとする水産有用魚種の放流、水産資源の再生産場所となる稚魚育成漁場の管理などを実施した。</li> <li>・マイボトル作製、配布による海洋ごみ削減啓発事業を実施した。</li> </ul> <p>○豊かな海づくりに関するPR動画作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明石たこ大使であるさかなクンを起用し、動画を作成した他、小学生が作成した紙芝居を動画化し、「あかし豊かな海づくりコーナー」などで放映を行った。</li> </ul> <p>○小学生を対象とした体験学習等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地引網体験、海苔づくり体験のほか、海に関する学習をまとめたパネル展示「あかしの海を見てみよう」を実施。</li> <li>・「絵はがきデザインコンクール『明石の海はみんなのたからもの』」の開催</li> </ul> <p>○旧波門崎灯籠堂復元及び周辺整備工事（2020年度（令和2年度）から繰越）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「旧波門崎灯籠堂（通称：明石港旧灯台）」を復元整備した。</li> </ul> <p><b>【中止した事業】</b></p> <p>○半夏生関連イベント</p>					
事業費 (千円)		1年目 (2020)	2年目 (2021)	3年目 (2022)	合計	
額 交 付	事業	交付決定額	25,300	12,583	10,775	48,658
		実績額	25,088	11,034		
	額 交 付	交付決定額	12,650	6,291	5,387	24,328
		確定額	12,544	5,517		
重要業績 評価指標 (KPI)	<p>①ふるさと納税（寄附金）制度の利用を目的とした明石市に対する個人寄附件数（2022年度：15,730件）</p> <p>②観光入込客数（2022年度：600万人）</p> <p>③マダコの漁獲量（2022年度：1,069t）</p> <p>④ノリ養殖生産量（2022年度：1,070,686千枚）</p>					

実績値		(参考) 申請時点	1年目 (2020)	2年目 (2021)	3年目 (2022)	目標値 (2022)	結果
	K P I ①	4,826	17,232	19,800		15,730	-
	K P I ②	549	363	381		600	-
	K P I ③	319	649	133		1,069	-
	K P I ④	818,593	528,918	600,776		1,070,686	
実績値の増減理由	<p>K P I ①：ふるさと納税（寄附金）制度の利用を目的とした明石市に対する個人寄附件数 返礼品のラインナップ充実やふるさと納税サイト（セゾン）の追加、多様な支払い手段への対応とともに、全国的なふるさと納税寄附件数の増加による。</p> <p>K P I ②：観光入込客数 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言や外出自粛の影響が大きい。</p> <p>K P I ③：マダコの漁獲量 不漁の原因となる冬場の低水温もなく、専門家も明確な原因は不明としているが、海の栄養塩類の低下による基礎生産力の低迷や遊漁船、プレジャーボートによるタコ釣りの人気が高まったことが考えられる。</p> <p>K P I ④：ノリ養殖生産量 栄養塩類の減少の影響が深刻化し、水質悪化に伴う基礎生産力の低迷が生産量に影響していると考えられる。また、2021年2月の平均気温は観測史上最高となる「暖冬」となり、生産海域の海水温が平年よりも高く推移していた。</p>						
事業効果	<p><b>【事業を実施した効果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税による寄附獲得に向けた取組により、全国的な巣ごもり需要の取り込みに成功した。</li> <li>明石たこ大使さかなクンを活用した豊かな海づくりに関する動画の配信や「豊かな海づくりコーナー」での動画放映など、コロナ禍においても効果が見込まれる事業を実施し、持続可能な海づくりについての周知・啓発が図られた。</li> <li>栄養塩類環境の改善に向けた取組を、今後も強化していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【今後の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症に対応したイベントの開催方法や動画配信などにより、コロナ後を見据えて事業を実施する。</li> <li>資源量の保全に向け、産卵用たこつぼの投入、ヒラメをはじめとする水産有用魚種の放流などの取組を継続していく。</li> <li>海への施肥の投入をはじめ、栄養塩類環境の改善に向けた取組の強化を図る。</li> </ul>						
外部有識者 (あかしSDGs推進審議会委員) の評価	<p>1 評価（該当する番号に○）</p> <p>① 本事業は、地方創生のために有効であった</p> <p>② 本事業は、地方創生のために有効とはいえなかった</p> <p>2 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税返礼品にブランド水産品を追加することで、消費圏拡大につながるとともに、寄附件数が大きく増加しており関係人口の増加に寄与している。</li> <li>観光入込客数について、コロナ禍の影響により減少しているが、「食」とこの度整備した「旧波門崎灯籠堂」を連携させて、効果的に発信するなど、コロナ後を見据えた取組を行い、関係人口の拡大を図っていただきたい。</li> <li>本事業は県外にも幅広く知られ、来訪者の増加、ブランド品の認知に大いに役立ったため、継続的に取り組んでほしい。</li> <li>マダコの漁獲量、ノリ養殖生産量は、気候の影響が大きいですが、持続可能な海づくりに向けて、栄養塩類環境の改善、資源量の保全・回復に、長期的に継続して取り組んでいただきたい。</li> </ul>						


#### 4 地方創生拠点整備交付金（2021年度（令和3年度）の効果検証）

##### (1) 2018年度（平成30年）交付決定事業

<b>事業名</b>	あさぎり・おおくら総合支援センター整備計画									
<b>主管課</b>	福祉局地域共生社会室									
<b>総合戦略 基本目標</b>	基本目標3 まちの賑いを高める 基本目標4 安全・安心な暮らしを実現する									
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが安心して暮らせる地域づくりを進め、転入、定住を促進するため、市内全体の高齢化率を上回り、老朽化したニュータウンの広がる朝霧・大蔵中学校区に、高齢者や障害者、子どもを含め総合的・包括的な相談対応、地域支援の拠点となる総合支援センターを整備する。</li> <li>本事業を行うことで、「自助」そして「共助」を促進し、「自助・共助・公助」のバランスを適正にし、転入者や長年住んでいる住民、世代や障害の有無に関係なく、地域で交流し安心して住み続けられる持続可能な地域社会を実現する。</li> <li>地域で活動する多様な主体と連携しながら、地域資源の開発、若年層の定着による人口構成の安定化や転出者抑制への取組により、定住人口の増加を図る。</li> </ul>									
<b>施設概要</b>	<p>あさぎり・おおくら総合支援センター</p> <p>(1) 施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①位置／明石市松が丘5丁目7番22号</li> <li>②敷地面積／約 3,300 m<sup>2</sup></li> <li>③階数／地上1階</li> <li>④延床面積／約 600 m<sup>2</sup></li> </ul> <p>(2) 施設の主な機能</p> <p>施設が整備されることにより、来所者に配慮した相談環境の充実に加えて、新たに設ける交流・活動スペースを活用した住民主体の多様な支え合い体制の構築等、地域共生社会づくりの推進を図る。</p>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合的・包括的支援機能</td> <td>○事務室／約 80 m<sup>2</sup>（センター職員 16名） ○相談室／約 10 m<sup>2</sup>× 2部屋</td> </tr> <tr> <td>地域住民の交流拠点機能</td> <td>○研修室／約 100 m<sup>2</sup>× 3部屋 地域ケア会議等により、地域住民が参画し地域課題を検討するなど、地域づくりを推進するためのネットワークを構築</td> </tr> <tr> <td>市民活動等の拠点機能</td> <td>○会議室／約 40 m<sup>2</sup> 市民活動団体やボランティア団体が利用、活動を支援</td> </tr> </tbody> </table>	機能	内容	総合的・包括的支援機能	○事務室／約 80 m <sup>2</sup> （センター職員 16名） ○相談室／約 10 m <sup>2</sup> × 2部屋	地域住民の交流拠点機能	○研修室／約 100 m <sup>2</sup> × 3部屋 地域ケア会議等により、地域住民が参画し地域課題を検討するなど、地域づくりを推進するためのネットワークを構築	市民活動等の拠点機能	○会議室／約 40 m <sup>2</sup> 市民活動団体やボランティア団体が利用、活動を支援	
機能	内容									
総合的・包括的支援機能	○事務室／約 80 m <sup>2</sup> （センター職員 16名） ○相談室／約 10 m <sup>2</sup> × 2部屋									
地域住民の交流拠点機能	○研修室／約 100 m <sup>2</sup> × 3部屋 地域ケア会議等により、地域住民が参画し地域課題を検討するなど、地域づくりを推進するためのネットワークを構築									
市民活動等の拠点機能	○会議室／約 40 m <sup>2</sup> 市民活動団体やボランティア団体が利用、活動を支援									
	<p>(3) 開所年月日</p> <p>2020年4月1日（水）</p>									
<b>事業内容 (2021年度)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校区ごとに配置された生活支援コーディネーターが中心となり、地域住民と協働しながら、住民同士が支え合う地域づくりのための啓発や担い手の養成、通いの場づくり等に引き続き取り組むとともに、住民主体の地域の通いの場や交流できる居場所の運営を支援した。</li> <li>コロナ禍における地域の高齢者等の閉じこもりによる身体機能等の低下を防ぐため、住民主体の地域活動が再開できるよう感染予防対策の助言等の支援を行った。</li> <li>ワクチン接種会場等、地域住民が集まる機会を活用し、自宅でも介護予防活動の取組が行えるよう、介護予防に関するDVDの放映及び配布を行った。</li> <li>感染防止対策を行いながら相談対応を継続するとともに、地域住民に対し対面式</li> </ul>									

	以外の相談方法の周知に努めた。																																
事業費	2019年度（整備費）：実績額 257,733千円 うち交付金額 86,644千円																																
重要業績 評価指標 (KPI)	①施設利用人数【予約利用】（2023年度:4,750人） ②朝霧、大蔵中学校区での住民主体による通いの場（自主グループ（体操）、認知症カフェ、サロンなど）の数（2023年度:72箇所） ③あさぎり・おおくら総合支援センターの相談件数（2023年度:4,662件）																																
実績値	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(参考) 開始前</th> <th>1年目 (2019)</th> <th>2年目 (2020)</th> <th>3年目 (2021)</th> <th>4年目 (2022)</th> <th>5年目 (2023)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KPI①</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4,244</td> <td>9,301</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>KPI②</td> <td>55</td> <td>-</td> <td>56</td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>KPI③</td> <td>4,262</td> <td>-</td> <td>8,296</td> <td>7,320</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2020年4月に開設したため、KPIは2年目（2020年度）から計上。</p>		(参考) 開始前	1年目 (2019)	2年目 (2020)	3年目 (2021)	4年目 (2022)	5年目 (2023)	結果	KPI①	-	-	4,244	9,301			-	KPI②	55	-	56	63			-	KPI③	4,262	-	8,296	7,320			-
	(参考) 開始前	1年目 (2019)	2年目 (2020)	3年目 (2021)	4年目 (2022)	5年目 (2023)	結果																										
KPI①	-	-	4,244	9,301			-																										
KPI②	55	-	56	63			-																										
KPI③	4,262	-	8,296	7,320			-																										
実績値の 増減理由	<p>KPI①：施設利用人数【予約利用】 地域での活動を再開する団体が増えたことに加え、新型コロナワクチン接種会場及び衆議院議員選挙の投票所として使用した。</p> <p>KPI②：朝霧、大蔵中学校区での住民主体による通いの場（自主グループ（体操）、認知症カフェ、サロンなど）の数 コロナ禍の影響が続くなか、コロナフレイル予防の観点から、十分な感染予防対策を講じたうえで活動を再開する団体や、新たな通いの場の立ち上げがあった。</p> <p>KPI③：あさぎり・おおくら総合支援センターの相談件数 生活支援ダイヤルや、生活アンケートの実施に伴う相談件数の増への対応は概ね終了したが、依然として相談件数が多い状態が続いている。</p>																																
事業効果	<p>【事業を実施した効果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナワクチン接種や衆議院議員選挙での利用者数を除いても昨年度と同程度の利用者があり、地域の施設として認識されている。</li> <li>・コロナ禍において集まることや対面式での活動が制限された中でも、新たな通いの場の立ち上げや維持するための支援を実施し、高齢者等の孤立化を防止できた。</li> <li>・相談件数が大幅に増加した状態が続いており、地域の身近な相談場所としての機能を発揮している。</li> </ul> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き感染対策を踏まえた活動再開を支援していく。</li> <li>・誰もが安心して暮らせる地域づくりの拠点となるように、ソフト面の取組を順次充実させる。</li> </ul>																																
外部有識者 (あかしSDGs 推進審議会委員) の評価	<p>1 評価（該当する番号に○）</p> <p>① 本事業は、地方創生のために有効であった</p> <p>② 本事業は、地方創生のために有効とはいえなかった</p> <p>2 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においても、施設利用者や相談件数は多く、地域の方に重要な拠点として有効活用されていると考えられる。</li> <li>・感染症に対応した活動や再開支援により、地域の新たな通いの場が増加し、取組の効果がみられ、人々の絆を深める効果も期待される。</li> <li>・コロナ禍によって起こった高齢者の孤立化等の新たな問題に対して、想定外の効果を果たすことができおり、今後とも状況に応じて柔軟に役割を果たしていただきたい。</li> <li>・引き続き、施設機能を有効に活用し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいただきたい。</li> </ul>																																

(2) 2020年度（令和2年度）交付決定事業

事業名	(仮称) 文化財収蔵庫整備事業							
主管課	市民生活局文化・スポーツ室							
総合戦略 基本目標	基本目標2 新たな人の流れをつくる 基本目標3 まちの賑いを高める							
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財収蔵庫を設置し、旧図書館などに分散して保管している埋蔵文化財の出土資料について、適切に保存し、地域の歴史に触れ、啓発できる資料とするとともに、長年にわたり市内で収集してきた工芸品、古文書、土器等の特色ある歴史資料を保存・活用することで、未来を担う子どもたちが明石の歴史や文化を学び、また、歴史資料を介して地域の専門家等と交流するなど地域の人を知る「ふるさと教育」を実践することで、地域に対する誇りと郷土愛の醸成及び未来を担う次世代の育成を図る。</li> <li>地域で長年にわたり育まれてきた生業・生活文化について、幅広い世代が再認識し、地域の未来の在り方を皆で支える場の提供をセットで実施することにより、自らの地域をよく知り、将来的なUターンや地域の将来を考える人材確保につなげ、若者の地元離れ及び東京圏への転出に歯止めをかける。</li> </ul>							
施設概要	<p>文化財収蔵庫</p> <p>(1) 施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①位置／明石市魚住町西岡字鴨台 2119 番 23</li> <li>②敷地面積／約 2,711 ㎡</li> <li>③階数／地上 1 階</li> <li>④延床面積／約 1,386 ㎡</li> </ul> <p>(2) 施設の主な機能</p> <p>施設が整備されることにより、地域や地域の人を知る「ふるさと教育」の実践により、地域で活躍する様々な人と広く交流を持ち、互いに協力する機会を提供するとともに、地域に対する誇りと郷土愛の醸成及び未来を担う次世代の育成や地域活性化を図る。</p> <table border="1" data-bbox="432 1312 1422 1525"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋蔵文化財資料等の保存</td> <td>○収蔵室／約 984 ㎡ ○作業室／約 74 ㎡</td> </tr> <tr> <td>地域の歴史・文化の発信と伝承</td> <td>○展示室／約 147 ㎡</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 開設年月日 2022年2月17日（木）</p>	機能	内容	埋蔵文化財資料等の保存	○収蔵室／約 984 ㎡ ○作業室／約 74 ㎡	地域の歴史・文化の発信と伝承	○展示室／約 147 ㎡	
機能	内容							
埋蔵文化財資料等の保存	○収蔵室／約 984 ㎡ ○作業室／約 74 ㎡							
地域の歴史・文化の発信と伝承	○展示室／約 147 ㎡							
事業内容 (2021年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財収蔵庫が2022年2月に完成し、2022年2月17日に開設した。</li> </ul>							
事業費	2021年度（整備費）：実績額 194,957千円 うち交付金額 97,479千円							
重要業績 評価指標 (KPI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①明石市立文化博物館入館者数（2025年度:50,000人）</li> <li>②市内の指定・登録文化財の数（2025年度:70件）</li> <li>③刊行物の発行数（2025年度:1,500部）</li> </ul>							

実績値		(参考) 開始前	1年目 (2021)	2年目 (2022)	3年目 (2023)	4年目 (2024)	5年目 (2025)	結果
	K P I ①	35,000	-					-
	K P I ②	66	-					-
	K P I ③	1,300	-					-
※2022年2月に開設したため、K P Iは2年目(2022年度)から計上。								
実績値の 増減理由	—							
事業効果	<p><b>【事業を実施した効果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震基準を充たさない建物から安全な場所に保管場所を移すことができた。</li> <li>市内に分散して保管していた文化財について、集約して適切な環境で保存することができるようになった。</li> <li>展示室を整備したことで、これまで保管庫で眠っていた文化財が市民に触れることができる状態になった。</li> </ul> <p><b>【今後の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財資料等の展示(活用)により市民等への啓発を行い、歴史資料を保存・活用する取組みを進めていく。</li> </ul>							
外部有識者 (あかしSDG s推進審議会委 員) の評価	<p>1 評価(該当する番号に○)</p> <p>① 本事業は、地方創生のために有効であった</p> <p>② 本事業は、地方創生のために有効とはいえなかった</p> <p>③ 本事業は、地方創生への効果の有無はまだわからない</p> <p>2 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史を知る上で貴重な文化財について、適切な環境で保存でき、資料の散逸の防止に効果が見込まれる。</li> <li>高齢化により地域文化の伝承の担い手が減少していく中で、ハード面の基盤を活用してサービスも拡充し、歴史の継承に努めてほしい。</li> <li>本施設は、文化財の保存利活用による地域の歴史・文化の発信と伝承などを目的として整備されており、地方創生の観点から、特に子どもたちの郷土愛の醸成につながるような取組を今後充実させていただきたい。</li> </ul>							